

北海道・東北

岩手わんこそばラウンド (4杯目) H27.11.7 (土) 岩手大学

北海道・東北体育・保健体育ネットワーク研究会が岩手大学において開催されました。秋田、福島、東京、鹿児島、地元岩手から計25名の参加がありました。

する、みる、ささえるスポーツの価値について、小学校、中学校、高等学校、大学、学生、県教委、スポーツ庁、多種多様な立場から熱心な協議を行いました。



東京マラソン体験レポート

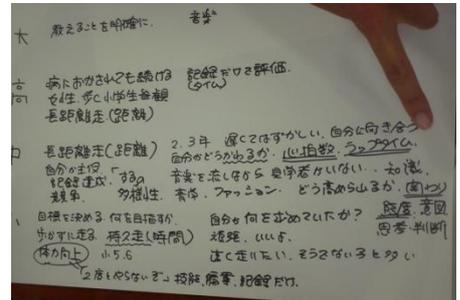
運よく2回目の当選を果たした雫石町立七ツ森小学校 副校長 多田敢先生が2015東京マラソンに出場し、走ることにそっこのけで様々な人たちにインタビューを行いました。

インタビューの映像には、「走ることが楽しくて仕方がない」というお年寄り、沿道から応援する人、大会を支える人など、様々な立場で大会に関わる方々のいきいきとした姿が映しだされており、スポーツのもつ力、魅力について考えさせられました。

グループ協議

そのようなスポーツの価値に触れ、生涯にわたってスポーツに親しむ資質や能力を学校体育においてどのように育むかグループ協議を行い、全体で交流しました。

- ・走る楽しさに触れるきっかけづくり
- ・速い人だけが評価されるのではなく、学習内容の習得を大切に
- ・多様な価値観を学ぶ機会の保障
- ・体育理論、業間運動・遊び、体育的行事の在り方の見直し など



体育学習会の取組交流

岩手には、世話人を中心に自主的に活動する11の体育学習会があります。遠野学習会、北上学習会の様子について発表していただき、成果や課題について意見交換をしました。

保育園を学習会の会場にすることで保幼小連携を進めたという工夫(銀河高原体育学習会)は、中学校教員をいかに巻き込むかという各地区の課題解決のよいヒントになりそうです。



ミニわんこそば大会

情報交換会のオープニングはミニわんこそば大会。する人、見る人、支える人それぞれの立場で参加しました。(優勝者 2分間で49杯!)

その後、県内外のみなさんと、寒い盛岡の夜を熱く盛り上げました。

トピックス&まとめ

高橋修一教科調査官には、中央教育審議会の動向について情報提供いただきました。

現在の子供たちが社会の中心となる2030年を予測することは難しい。つまり、どんな世の中になっても生き抜く力を身に付ける必要があるという。

佐藤豊先生には、カンボジア報告と本ラウンドのまとめをしていただきました。**ダイバーシティ(多様性)**というキーワードを示していただきました。